

学びて時に「れを習ふ」 「論語」から

本文は「白文」で書かれています。学習するときには **白文** ↓ **訓読文** に直して学習していきます。国の思想家孔子が述べたものを弟子たちがまとめたもの、それが論語です。ここでは、論語の第1章 学而第1「」の中の 学びて時に之を習ふ」の解説をしています。論語の中でもとても有名な「説」です。

子曰、 学而時習之。 不亦説乎。

有朋自遠方来。 不亦楽乎。

人不知而不愠。 不亦君子乎。」

書き下し文

子曰、 学びて時に之を習ふ。 亦説(よろこ)ばしからませ。
朋有り、遠方より来たる。 亦樂しからませ。
人知らずして愠(いら)みず、 亦君子ならませ。」と。

現代語訳 (口語訳)

孔子はおっしゃいました。

習ったことを機会があるごとに復習し身につけていくことは、なんと喜ばしいことでしょうか。

友人が遠方からわざわざ私のために訪ねてきてくれることは、なんと嬉しいことでしょうか。

他人が自分を認めてくれないからといって不平不満を言うことはありません。なんと徳のある人ではないでしょうか。

■子

孔子の「子」を言います。論語で「子」と出てきたら孔子の「子」を指すので、覚えておきましょう。

■而

置き字の一つ。読まずに、「や」「ただけども」のつぎに接続を表します。やっかいなのは、順接と逆接、どちらの場合でも使われるという点です。見分け方は、文脈から判断するしかありません。

■不亦説乎

「おたよるにばしからずや」と読み、なんどこではないか」という疑問・反語を表しています。

■君子

「子」は、徳の高い人の意に使われています。

中国の思想家孔子が述べたものを弟子たちがまとめたもの、それが論語です。ここでは、論語の第2章 為政第二の第11、故きを温ねて」の解説をしています。

四字熟語に温故知新という言葉があります。意味は、昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得ることですが、この論語から発祥した言葉のひとつです。

子曰、温故而知新、可以為師矣。

書き下し文

子曰く、故 ぬる（きを温 たす）ねて新しきを知る、以って師と為るべし。

口語訳 現代語訳)

孔子先生はおっしゃいました。昔からの伝えを大切にしてい、新しい知識を得て行くことができれば、人を教える師となることができるといふこと。と。

■而

置き字の1つ。読まずに、ヤて「ヤだけねども」のようにつなげ接続を表します。

やっかいなのは、順接と逆接、どちらの場合でも使われるという点です。見分け方は、文脈から判断するしかありません。

■矣

置き字の1つ。文末に置いて、その文を強調するために使われます。文意が強くなるだけで、特にそれ以上の意味はありません。

子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者。

書き下し文

子曰わく、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。

口語訳 現代語訳)

孔子がおっしゃいました、

「よく知る人もそれを好む人には勝てない、好む人もそれを楽しむ人には勝てない。」